

今治城跡(今治市)

築城年代:慶長7年(1602年)、築城者:藤堂高虎

北側から海水を満々と湛える内堀越しに見た今治城跡/正面は「鉄御門・武具櫓」/左端は「御金櫓」/右端は「山里櫓」/まさに海城



左手の土橋から登城する/正面は「鉄御門・武具櫓」/左奥に「天守」が見える



その「天守」をアップで見たところ



それでは、北東側の土橋から「高麗門」→「鉄御門」→「武具櫓」→「山里櫓」→「三の丸」→「二の丸」→「御金櫓」→「本丸」→「天守」と進もう



山里櫓 (やまざとやぐら)
二の丸北西隅の二重櫓。名前の由来は城内の庭園「山里」の方向に位置するため。平成2年(1990)に再建され、内部は古美術館になっています。



鉄御門・武具櫓 (くるがねごもん・ぶぐやぐら)
平成19年(2007)に周囲の多聞櫓とともに再建され、内部公開するとともに、ビデオ放映・パネル展示を行っています。



御金櫓 (おかねやぐら)
二の丸東隅の二重櫓。金蔵の役割を果たした櫓。昭和60年(1985)に再建され、内部は現代美術館になっています。



ありし日の今治城

復元イラスト

(三浦正幸復元 黒澤謙矢作画 晋水社提供)

ここが北東側の土橋/右手に城内にある吹揚神社の石柱が立つ/ここから登城する



付近には石碑や説明板が立っていた/「指定史跡 今治城跡」と記された石碑





“日本最大の海賊”の本拠地:芸予諸島

— よみがえる村上海賊“Murakami KAIZOKU”の記憶 —

The story of ‘Murakami KAIZOKU’

戦国時代、宣教師ハイス・フロイスをして“日本最大の海賊”と言わしめた「村上海賊」“Murakami KAIZOKU”。理不尽に船を襲い、金品を略奪する「海賊(バレーブ)」とは対照的に、村上海賊は控に従って航海の安全を保障し、瀬戸内海の交易・流通の秩序を支える海上活動を生業とした。その本拠地「芸予諸島」には、活動拠点として築いた「海城」群など、海賊たちの記憶が色濃く残っている。尾道・今治をつなぐ芸予諸島をゆけば、急流が渦巻くこの地の利を活かし、中世の瀬戸内海航路を支配した村上海賊の生きた姿を現代において体感できる。

今治城跡



村上海賊が芸予諸島を去った後、今治の地に入った藤堂高虎が築いた当時最新鋭の近世海城。今治城が望む米島海峡は、江戸時代も変わらず、政治、軍事、経済に影響を与える重要な場所であった。芸予諸島に残った海の人々がこの城を舞台に活躍をし、現在の海事都市今治の礎を築いたのであろう。

村上海賊魅力発信推進協議会
(愛媛県今治市・広島県尾道市)



構成文化財

1	壱岐山城跡
2	淨土寺文庫印地
3	天明寺の御分館吉
4	阿島城跡
5	百島茶臼山城跡
6	金崎城跡
7	白龍山(五百羅漢像)
8	青木城跡
9	阿島村上家伝来資料群
10	阿島村上氏一帯の墓域
11	松浦の伝承たどり
12	徳島(島)の歴史・文化財群
13	青島城跡
14	長崎城跡
15	佐崎城跡
16	向上寺三重塔
17	鷹取島
18	大二島
19	七尾神社の文化財(止光寺遺跡)
20	甘崎城跡
21	伝村上吉藤堀と明光寺
22	伝村上藤原基と神興寺
23	見返島
24	能島城跡
25	能島村上家伝来資料群
26	非貫川敷跡および瑞山の村上海賊関連遺跡群
27	友通寺稲宮堂(瑞山)および瑞山の中世文化財
28	八幡山
29	伝村上義弘墓と高麗寺
30	武志寺の堀と中世の遺跡
31	波止浜
32	東島城跡
33	大瀬八幡大神社
34	別宮大山祇神社拜殿
35	今治城跡
36	関分山城跡
37	志島ヶ原
38	光林寺文書
39	乃万地区の石塔群
40	伊島城跡
41	法楽院
42	水軍墓

正面は「鉄御門・武具櫓」/左奥に「天守」が見える



そこから左手を見たところ/正面前方は「御金櫓」



同じく右手を見たところ/左手前方は「武具櫓」



その更に右手を見たところ/正面前方に樋門が見える



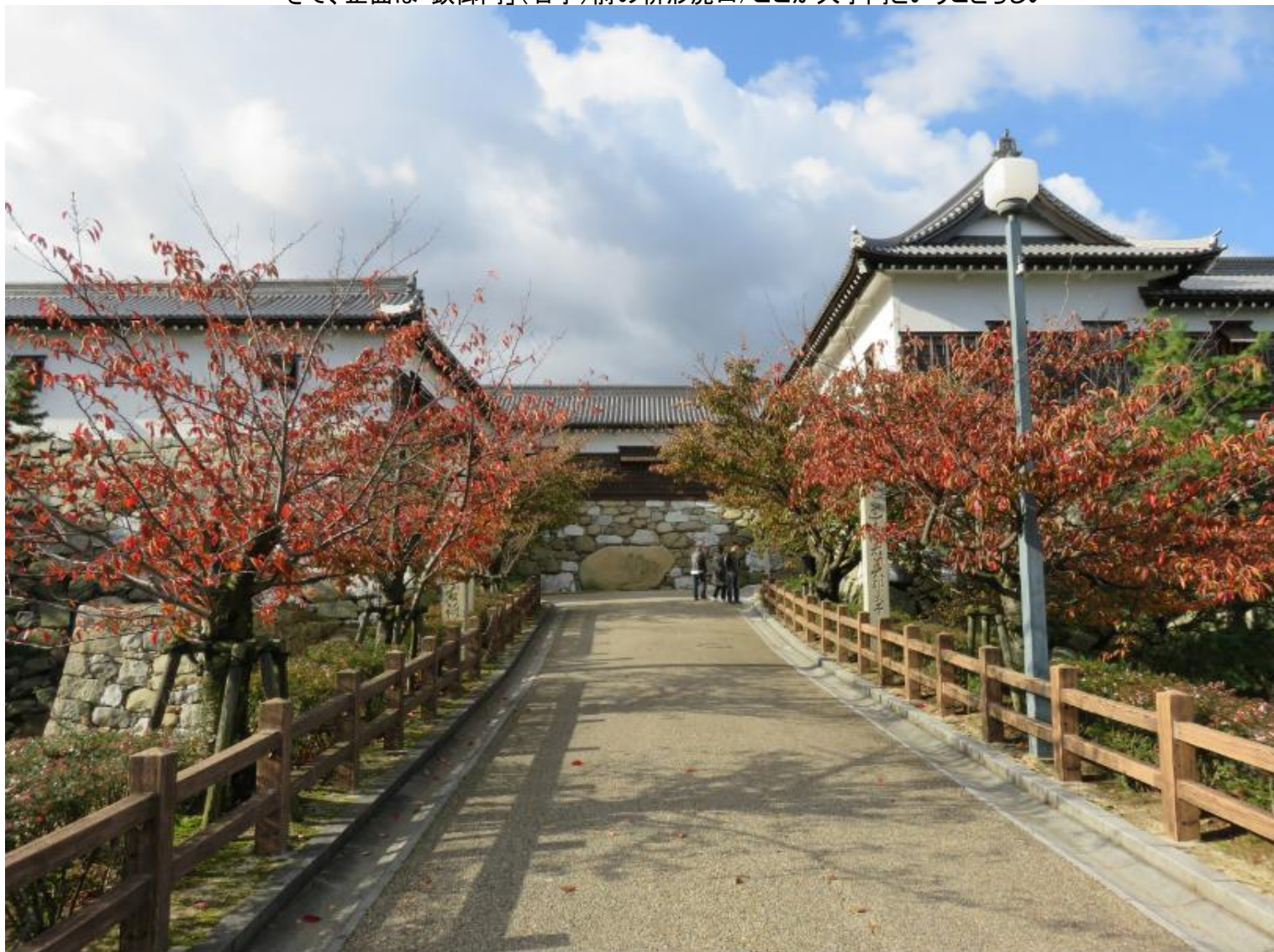
これがその海水流入樋門/この先は海に繋がっている



内堀には海水魚が泳いでいた



さて、正面は「鉄御門」(右手)前の枡形虎口/ここが大手門ということらしい



右手の「鉄御門・武具櫓」を見たところ



前方で人が立っている足元の灰色のペイントが、「高麗門」の両側にあった袖壁の石垣跡で、その先は枡形になっていた/正面の大きな石は「勘兵衛石」で、その上部の建物は「多門櫓」/右手が「鉄御門」



これが「勘兵衛石」



そこで右手を見たところ/説明坂がある/左下の灰色のペイントが「高麗門」の両側にあった袖壁の石垣跡



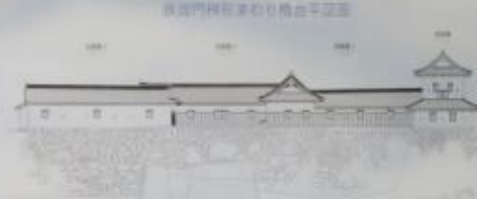
鉄御門

鉄御門の再建は、平成15年「今治城築城・開町400年祭」の記念事業の一環として計画されました。三の丸の大手筋にあたるこの郭は、総鉄板張りの鉄御門を始め武具櫓・東多聞櫓・西多聞櫓の7連の櫓で形成されていましたが、明治4年に消失し、翌年には本丸・二の丸の建築群と鉄御門櫓形正面石垣も撤去されています。本計画は鉄御門・東多聞櫓・西多聞櫓及び東西控軍の一連の建造物を市民の寄付金により復元する事業です（武具櫓は昭和55年再建）。上屋建物については、江戸時代末期の寛政3年、半井精庵撮影の写真と芳野家文書を復元の基礎資料とし、史跡今治城跡整備検討委員会の指導のもとに設計されました。発掘調査については、事業開始にあたり平成16年2月から史跡整備の基本である試掘調査を行い、平成17年10月から工事に伴う事前調査を開始し、旧櫓台の礎石や下部礎石、門礎石（石灰岩の大石）が地中より検出されました。

石垣修復には、重さ16t、表面積8.9㎡の勅兵衛石を櫓形正面中央に据え、出土大梁石（表面積2.5～5㎡）は出土位置に配する等、遺構礎石を全て再使用、不足礎石のみ地元大島産の野石（花崗岩）で補充しています。修復石垣の面積は計314.9㎡、復元石垣面積は計337.1㎡に及んでいます。

高虎時代の櫓形地盤面は高さ5.8mと思われるが、現地盤よりかなり低く、復元は困難であるため、後世の久松期（高さ6.5～6.8m）程度としています。これに伴い門前の石段・雨落ち等は同時期の形態を復元しています。

建築物は、鉄御門・東多聞櫓・西多聞櫓は岐阜県・茨城県産榿材、背面冠木のみ岩手県産松丸太材を、東西多聞櫓は久万産他の檜材、小屋組は久万産の杉材と島根県・鳥取県産松丸太を使っています。鉄御門を初めとする7連櫓の延床面積は769.2㎡となっています。



今治城

今治城は近に海水が引かれた近世の平城で、大予二の丸に藩主の館を、三の丸大手口の表門に鉄御門（くろがねごもん）、馬出（搦め手）口に山里門を置いていました。幕府高虎は、慶長7年（1602年）6月から今治城の普請を開始、慶長9年に完成しました。尚時期に徳川家康の天下普請に乞わかれ、各地の多くの築城の構張りに関与しています。従って、今治城は徳川系城郭の雛形と宮われています。

高虎の城づくりは、高石垣、広い堀、大手と搦め手を明確化、虎口の出入口には樹形・方形の区画を設け、郭は角形の構成を基本とすることが多い等の特徴が見られます。高虎は豊臣秀長、豊臣秀吉、徳川家康と多くの主君に仕え、城づくりと現場の体験から、高虎独自の工夫と、当時の最先端の技術を活かし、築城の名手として知られています。

自らの居城としては、紀伊高野城、伊予宇和島城・大洲城・今治城、伊勢津城・伊賀上野城があります。豊臣政権下では秀長の命で、出石城、大和郡山城、聚楽第等を、秀吉の命では伏見城等を、徳川政権下では膳所城、再築伏見城、江戸城、丹波磯山城、再築丹波亀山城、再築二条城、再築和歌山城、再築大坂城、淀城などを築いています。

今治城は海浜に立地する大規模な平城、層塔式天守、樹形虎口、舟入等城郭受城上、革新的なものが認められています。主要部を水際につき、陸地部に郭を広げていく城郭構張りは、坂本城、近江大津城、膳所城、彦根城等の織豊期につくられた琵琶湖湖畔の城郭に多く見られ、これらの城の構張りを祖形にしたものと考えられます。

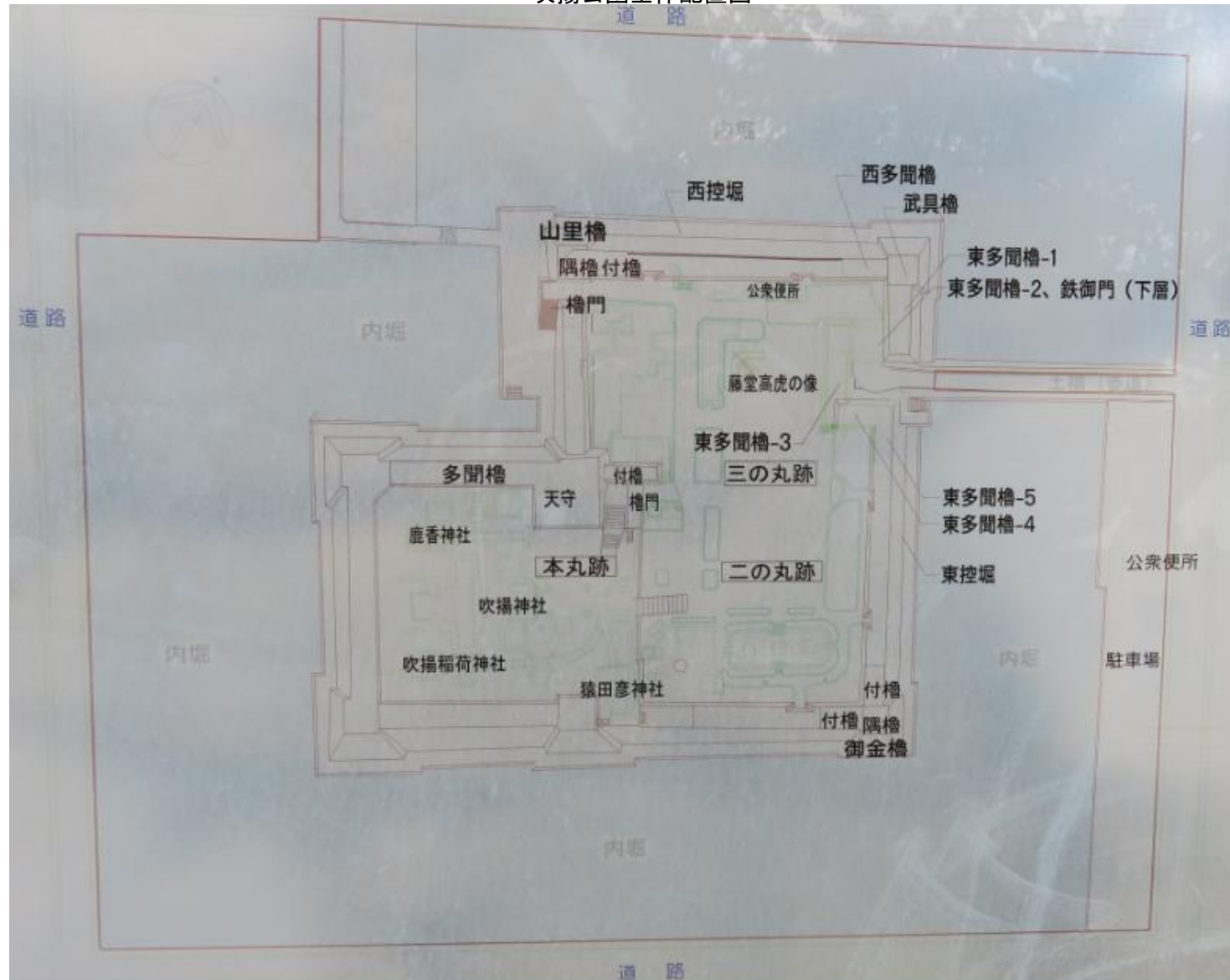
慶長末から寛永年間にかけて徳川幕府は、巨大な城郭を天下普請として築くべき短期間に築いています。層塔式天守等に見られる、単純で規則的な積み上げ構造は用材の規格化を容易とし、工期短縮も可能とするなど、高虎は城郭構築技術の発展に大きく寄与したと思われます。



吹揚公園全体配置図



吹揚公園全体配置図



高麗門跡

Site of the Korai-mon Gate

鉄御門の手前にあったもう一つの城門(高麗門)

高麗門と鉄御門の二つの城門で、攻めてくる敵を食い止め、さらに二つの城門に挟まれた四角形の広場(枳形)に敵が侵入すると、周囲の多間櫓から攻撃を加えることができました。

最も守りが固い虎口(城の入口)構造で、藤堂高虎が創始した築城術の一つです。

A castle gate which used to be in front of the Kurogane-gomon Gate (Korai-mon Gate). The Korai-mon Gate and the Kurogane-gomon Gate (an iron-plated gate) initially held off enemies attempting to attack the castle. However, even if they managed to break through into the open square area between the two castle gates, they would have been exposed to a barrage of attacks from the surrounding Tamon-yagura Turrets.

This open area between the two castle gates is a Koguchi (castle entrance). This structural design provided the firmest defense and was one of the castle-building techniques originally constructed by Takatora Todo.

足元の灰色のペイントは、高麗門の両側にあった袖塀の石垣跡です。

The gray paint near your feet marks the stone walls which used to be on both sides of the Korai-mon Gate.



鉄御門の枡形虎口 略図

A diagram of the box-shaped entrance at the Kurogane-gomon Gate

多間櫓(たもんやぐら)
Tamon-yagura Turret

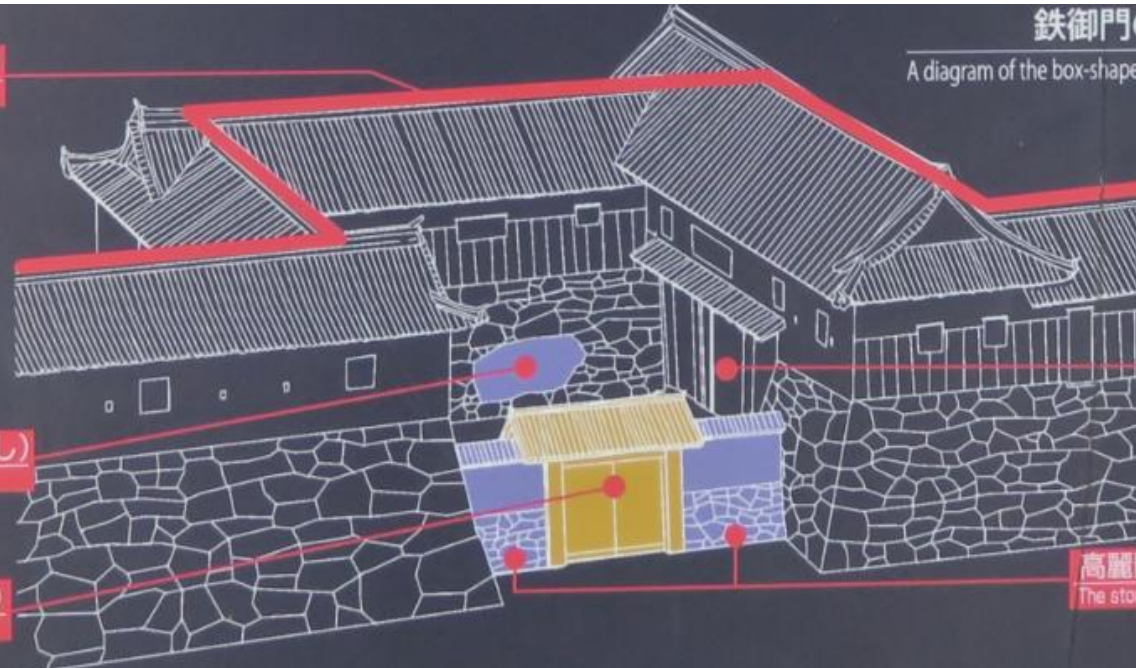
勘兵衛石(かんべえいし)
Kanbe-ishi Stone

高麗門(こうらいもん)
Korai-mon Gate

鉄御門(くろがねごもん)
Kurogane-gomon Gate

高麗門の袖塙(そでべい)の石垣
The stone walls on both sides of the Korai-mon Gate

今治城



これは「高麗門」前の左手にある、船溜りへの階段/左手が土橋



右手の壘上から北東方向を見たところ/かつて三重の水堀を持ち、海と繋いで船入をつくり、軍船を係留していた海城の雰囲気



枅形虎口の右手にある「鉄御門」/「格子窓」や「狭間」が幾つも配置されている



「鉄御門」(平成19年再建)を正面から見たところ



軒下には「石落し」がある



振り返って「多門櫓」を見たところ



これは城内側から「鉄御門」を見たところ



左手を見たところ



少し退いて「鉄御門」を見たところ/右手が「三の丸」方向



その右手(南西方向)を見たところ/前方に説明坂が立っている



いまばりじょうあんないず 今治城案内図

Imabari Castle Area Map



日本屈指の海城 今治城

今治城は、江戸時代のはじめ頃、築城の名手 築山高虎が瀬戸内海に面した海岸に築いた名城です。軟弱な地盤（砂浜）にも関わらず、伊予半島（現在の愛媛県の約半分）20万石の大名にふさわしい城郭を技術の粋を凝集して築き上げ、高虎の代表作となりました。広大な城郭とその城下町は、その後の今治市の発展の基礎となりました。

今治城の特徴は、広大な水堀と高い石垣です。全国的にも大変珍しい海水を引き入れた海岸平堀で、日本三大水堀の一つに数えられています。堀は潮の干満で水位が変わり、海の魚の泳ぐ姿を見ることができます。

現在の天守は、昭和55年（1980）に市制60周年を記念して再建されたもので、内部は歴史資料館と自然科学館になっており、最上層からは市街地や瀬戸内海の鳥ヶ、西日本一の高さを誇る石鎚山などが眺望できます。

また、御金櫓は郷土美術館、山里櫓は古美術館になっており、鉄砲門・武器櫓は本造の復元建物として内部公開しています。

Imabari Castle

one of the most outstanding coastal castles in Japan

Imabari Castle was built by Takatora Tode, a military commander known as an expert castle-builder, in the early seventeenth century. It's a remarkable castle on coastal land facing the Seto Inland Sea. In spite of the weak ground (sandy beach), the castle was built combining the best construction techniques of that time. It showed Takatora's authority as a lord of half of Iyo Province (present-day Ehime Prefecture) with a 200,000-koku income (a koku was equal to 180 liters of rice). The castle is one of Takatora's masterpieces. The vast castle and its castle-town underlay the development of Imabari City afterward.

Imabari Castle, one of the three major 'water-castles' in Japan, features a vast water moat, a high stone wall and a unique coastal castle on flat land with seawater drawn in. The water level of the moat changes with the tide, and salt-water fish can be seen swimming there.

The present castle tower was rebuilt in 1980 in commemoration of the 60th anniversary of Imabari becoming a city. Inside the castle are a history museum and a natural science museum. The top-floor observation deck commands a panoramic view of the city, small scattered islands of the Inland Sea, and Mt. Ishizuchi, the highest peak in Western Japan.

The Okane-yagura Turret and the Yamasato-yagura Turret house a local art museum and an antique museum, respectively. The wooden buildings of both the Kurogane-gomon Gate and the Bugu-yagura Turret have been restored. The inside of them is open to the public.

振り返って北東方向を見たところ/「鉄御門」(右手)と「武具櫓」(左手)を繋ぐ「多門櫓」を見たところ/前方に説明坂がある



説明坂の両サイドの石が「鉄御門」遺構礎石



今治城三の丸跡鉄御門遺構礎石

展示されている2つの石は、平成17年1月～平成18年10月にわたる発掘調査において検出された、三の丸表門である鉄御門に使われていた礎石です。

これらの2つの礎石は、鉄御門の正面鏡柱と背面控柱を支える礎石で、梁間寸法5.70mあったことがわかっています。礎石上面が平坦で、扉の付く鏡柱の礎石は、背面控柱の礎石より大きくなっています。両礎石とも石質は石灰岩で、割れが入っており、再使用するには強度・耐久性から不安がありました。一般に礎石として石灰岩は脆く、使われる事例はあまりない為、当地に移設展示することになりました。

鏡柱用の礎石の正面側には鑿（ノミ）で研り取って全面を平滑に加工した跡があり、石段の蹴込み面を兼ねた加工跡と思われる。

おそらく、遺構調査で判明した藤堂高虎創築の鉄御門枡形の地盤高さが現状地盤よりも1m以上低かったようで、門正面に右に折れ、1.5m程石段を上って鉄御門を潜ったようであり、その急な登りの石段を納めるために礎石に蹴込み加工を施したと推測されます。

今回の復元に際しては、新規取替え礎石は強度・耐久性のある市内大島産の花崗岩を使って、レプリカを制作し、旧地盤面下に鉄筋コンクリート造の一体の基礎を築造し、その上に新設礎石を旧位置に据え付け、上部建家工事を行っています。

この他に、工事に伴って実施した発掘調査では、破却されたたくさんの瓦片及び枡形正面石垣などについて、破却改変時の状態を記録保存しております。

鉄御門に関する問い合わせは、
今治城管理事務所、または市文化振興課まで
(TEL0898-36-1608)



そこから南方向を見ると「本丸」に立つ「天守」が見える/このエリアは「三の丸」



近寄って見ると手前に銅像がある



これは絵になる藤堂高虎の銅像と天守



碑文

藤堂高虎公は 弘治二年（一五五六）近江の国に生まれた

羽柴秀長 豊臣秀吉などに仕えて宇和島・大洲八万石の大名となり 慶長五年（一六〇〇）には関ヶ原の戦功によって 徳川家康から今治十二万石を加増され 伊予半国二十万三千石の領主となった

今治城は 高虎公により慶長九年（一六〇四）に竣工を見た 三重の堀に海水を引き入れ 舟入りを持つ日本有数の海城である 五層の天守は層塔式で白漆喰が映え 近世城郭のモデルとされた 築城に合わせて城下に町割りを行い 地名を今張から今治に改め 現代の今治市の原型がつけられた

築城の名人と称された高虎公は 多くの天下普請の城を築き 慶長十三年（一六〇八）伊勢・伊賀に転封された そして大坂の陣のあと 朝廷と幕府間の斡旋役を務めるなど徳川幕藩体制の基礎固めに大きく貢献し 寛永七年（一六三〇）七十五年の波乱の生涯を閉じた 築城四百年に当たり この像を建て 高虎公の業績を子々孫々まで伝えるものである

像の制作は 文化功労者・日本芸術院会員の中村晋也先生 題字は 文化勲章受章者 村上三島先生の揮毫による

平成十六年九月吉日

今治城築城・開町四〇〇年祭実行委員会 今治市

そこから振り返って北東方向に「鉄御門」を見たところ



その左手の「武具櫓」を見たところ



では「武具櫓」に入ってみよう/正面がその入口



平成19年再建

4

鉄御門
武具櫓

Kurogane-gomon Gate
Bugu-yagura Turret

鐵御門 铁御门

武具櫓 武具櫓

쿠로가네고몬 부구야구라

「武具櫓」の内部



先程見た「石落とし」



いし おとし
石落

Ishiotoshi

石落は、床に開けられた細長い蓋付きの穴のことで、ここから石を落としたり鉄砲を撃ったりして、下にいる敵兵を攻撃します。

この鉄御門のように門の上に櫓を載せた櫓門では、門を突破しようとする敵兵を攻撃するため、扉の真上に石落が設けられていました。

Ishiotoshi is a narrow hole created in the floor used when attacking enemies by dropping stones on them or shooting them with guns.

同じ「狭間」



狭間

Sama

狭間は、壁面に開けられた小窓のことで、ここから鉄砲や矢を放ちます。

外側の口を小さく、内側の口は大きく作っています。敵兵から射撃されにくく、内側からは鉄砲や弓を幅広く発射することができます。また、石垣の上にある狭間は、敵兵を狙いやすいように下に傾けて作られています。

Sama is a small loophole set on the wall of Japanese castles. Bullets and arrows are shot from this loophole against the enemy.

「狭間」から、枡形虎口に侵入した敵兵を狙い撃ち出来る



同じく「格子窓」



格子窓

格子窓は、敵兵の侵入や矢弾を防ぐために、太い格子をつけた窓のことです。

格子の間隔は、敵兵の頭が入らず、かつ内側から銃砲を撃ったり矢を射ることができる幅で作られています。

Gilded window is a window with heavy grille designed to prevent arrows, bullets, and enemies from entering. It was decided to make the spacing of the grille smaller than an enemy's head, but wide enough to shoot bullets and arrows from.

ますがたこぐち 枳形虎口

Masugata-koguchi

枳形虎口とは、石垣や土塁で囲った四角形の広場(枳形)を伴う城の出入口(虎口)のことです。それまでの枳形虎口には一つしか門がありませんでしたが、徳川高虎は今治城において、外側に高麗門、内側に鉄砲門という二重構えの城門を設置しました。さらに高虎は、枳形の三方に長屋伏の櫓(多聞櫓)を巡らせました。敵兵が枳形に侵入しても両りの多聞櫓からの集中攻撃で全滅させることができる史上最も強固な虎口を考案したのです。

日本で初めて試みられた今治城での枳形虎口の形式は、その後、江戸城や大坂城などの徳川幕府の主要城郭にも採用されていきました。



Masugata-koguchi indicates a specific style of castle entrance in the shape of a square. The Masugata-koguchi of Imaburi Castle consists of double gates; Karai-mon Gate is the outer gate and Karumise-gomon Gate is the inner gate. The square is enclosed on three sides by long, thin buildings, called Tsuman-yagura Turret. This is the most impregnable style of castle entrance in Japan. It was first designed by Tokotora Tado who built Imaburi Castle.

「武具櫓」を出て南西方向を見たところ/前方に「山里櫓」が見える/右手は控塀



ここが「山里櫓」入口



平成2年再建

③

山里櫓

Yamazato-yagura Turret

山里櫓

山里櫓

야마자토야구라

そこから南方向に「天守」を見たところ/手前の建物は吹揚神社社務所



これは「三の丸」で北東側から南西方向を見たところ/前方右手が「山里櫓」/前方左手は吹揚神社社務所



その先には櫓門(山里門)がある(こちらは搦手のようだ)/この先には後程行ってみよう/右手は「山里櫓」



振り返って北東方向(「鉄御門」方向)を見たところ/左手が「山里櫓」



これは「三の丸」で北西側から南東方向を見たところで、左手の石垣のラインから前方は「二の丸」のエリアのようだ/そこには「二の丸御殿」があったと云う/現在「三の丸」と「二の丸」は一体となって公園になっている



改めて「二の丸」に立つ藤堂高虎の銅像を見たところ



そこから「多門櫓」を見たところ



さて、その右手(二の丸)を見ると北東側に井戸がある





これが「蒼吹の井」



そこから「二の丸」を南西方向に見たところ/前方が「本丸」に建つ「天守」



その「天守」をアップで見るところ



これは「二の丸」の中央から北東方向を見たところ



その北東側の控塀を見たところ



その上に登って南東方向を見たところ/前方に「御金櫓」が見える



これは「鉄御門」の南東部の「多門櫓」



さて、正面が「二の丸」南東隅に建つ「御金櫓」



昭和60年再建

2

御金櫓

Okane-yagura Turret

御金櫓

御金櫓

오카네야구라

これは「二の丸」を南東側から北西方向に見たところ/右手の張り出した「多門櫓」から先のエリアは「三の丸」のようだ



そこで振り返って南東方向を見たところで、さまざまな石碑が立っている



その右手を見たところ/左手の石塁の向こうは内堀/右手の控塀の向こうは「本丸」のエリア/住吉神社社殿の屋根が見える



これはその石塁を見たところで、この右下には内堀がある/正面前方は「御金櫓」



さて、正面は「本丸」への櫓門



櫓門の左手に説明坂がある





贈
今治ライオン

今治城跡
今治城跡は、徳川幕府の藩政を象徴する重要な遺構である。この城跡は、1619年に築かれたとされ、その規模は東西約1.5キロメートル、南北約1.2キロメートルに及ぶ。城跡の中心には、本丸、二の丸、三の丸が並び、その周囲には土塁と空堀がめぐらされていた。現在は、城跡の一部が公園として整備されており、多くの市民が散歩や運動の場として利用している。また、城跡の周辺には、多くの歴史的建造物や文化財が残り、その歴史を伝える重要な役割を果たしている。

今治城沿革

藤堂高虎公は慶長五年（一六〇〇）年関ヶ原の合戦に東軍徳川家康方の先鋒として戦功をたて伊予半国二十万三千石を与えられた当時諸大名随一の築城の権威であった高虎公は内海において海陸の要衝である今治を城地と定め渡邊勘兵衛と築城奉行に木山六之丞と普請方として慶長七年より同九年にかけて城壁高さ六間乃至間を築き本丸は五層目の天守閣その他には櫓城門等二十数棟を配し三重城濠をめぐらすこれに海水を導入して当時としては他に類例のない一大平城を構築したまた公の家康に信はされ慶長十三年伊勢の津に国替え増封されたが天守閣は公が家康から丹波亀山の築城を命ぜられた時献して龜山城に移築したその後今治城は義子高吉が二万石で維持し更に寛永十二年（一六三五年）に伊勢長島より久松定房が入城し後三万五千石で世々十代を経て明治維新となった。

現在の天守閣は昭和五十五年十月十日今治市制六十周年記念として再建され往時の偉容を再現するに至った。

今治城跡は昭和二十八年十月九日愛媛県教育委員会から史跡として指定を受けている。

今治市教育委員会

ここは櫓門の左手にある吹揚神社の鳥居/左手に説明坂がある





吹揚神社
吹揚神社は、吹揚村の中心にあり、吹揚村の歴史を伝える重要な文化財である。吹揚村は、吹揚神社の創建以来、吹揚村の歴史を伝える重要な文化財である。吹揚村は、吹揚神社の創建以来、吹揚村の歴史を伝える重要な文化財である。

吹揚神社 吹揚村 吹揚神社 吹揚村

吹揚神社 ふきあけ

御祭神 天照大神 八幡大神
事代主神 巖島大神
藤堂高虎 久松定房

例祭日 五月第二土曜日

往古より今治市内に鎮座していた神明宮、巖敷八幡宮、巖島神社、夷宮の四社を廃藩の際旧社地の故を以て城内に合祀社殿を造営し明治五年十一月十九日遷座旧城名をとり吹揚神社と称す
即日郷社に列し明治十五年縣社に昇格す
後に藤堂高虎及び久松家祖神をも奉遷す
昭和三十三年戦災の復興をなしたるも昭和五十五年放火により焼失
昭和五十八年現社殿を再建す

吹揚神社は前方の「本丸」に所在する



さて、櫓門を潜ろう/正面は「天守」の石垣



櫓門を潜って左手を見たところ



坂を登って振り返って見たところ/右手が櫓門/正面は付櫓/左手は「天守」



さて、これが「天守」/南東側から見たところ/鉄筋コンクリート造の五層六階の模擬天守



これは「本丸」から先程の吹揚神社の鳥居を見下ろしたところ/前方が「二の丸」



振り返って吹揚神社社殿方向を見たところ



右手に「本丸」に建つ「天守」を見たところ



これは左手の住吉神社社殿を見たところ



猿田彦神社とも云うようだ



さて、吹揚神社社殿を見よう/これは神門か



拝殿が見える



これはそこで振り返って「二の丸」方向を見たところ



これが吹揚神社拝殿



左手を見たところ



右手を見たところ



振り返って神門を見たところ



左手が吹揚神社本殿



本殿を左側面から見たところ



これは吹揚神社の左手にある吹揚稲荷神社



沢山の赤い鳥居を潜った先に社殿がある





これが吹揚稲荷神社社殿



右側面を見たところ



これは吹揚稲荷神社社殿の南東側にある石塁を見たところで、石塁の右手は内堀



これがその石塁に登って北東方向を見たところ/右下が内堀



これは吹揚稲荷神社社殿の背後にある石塁上で北西方向を見たところ



振り返って南東方向を見たところ/正面の張り出しの所は「南隅櫓跡」



「南隅櫓跡」から北西方向を見たところ/向こうに見える張り出しは「西隅櫓跡」/石垣の下の狭い平場は「犬走り」



そこで下を覗き込んだところ/とっても危険なアングル/石垣面で作業している人がいた(安全ロープ使用中)



これは「南隅櫓跡」から北東方向に見た石垣の下の「犬走り」を見たところ/この先に見える張り出しは「月見櫓跡」



そこで下を覗き込んだところ/超危険！



さて、これは吹揚神社の右手にある麩香神社



鹿香神社社殿



さて、それでは「天守」に登ってみよう



ここは最上階の展望台/縁をぐるりと一周出来る



唐破風の下を見上げたところ



北西方向を見たところ/右手前方に、しまなみ海道の来島海峡大橋が見える



その来島海峡大橋をアップで見たところ



下には北西隅の「山里櫓」とそれに繋がる櫓門が見える/それらの右手前は吹揚神社社務所



その左手(西方向)を見たところ/搦手の櫓門から階段を下って内堀を渡る土橋がある



同じく右手(北方向)を見たところ/右手に北東隅にある「武具櫓」、「鉄御門」そしてそれらを繋ぐ「多門櫓」が見える/海水流入樋門は前方の今治港の内港にと繋がっている



それらの手前に藤堂高虎の銅像が見える



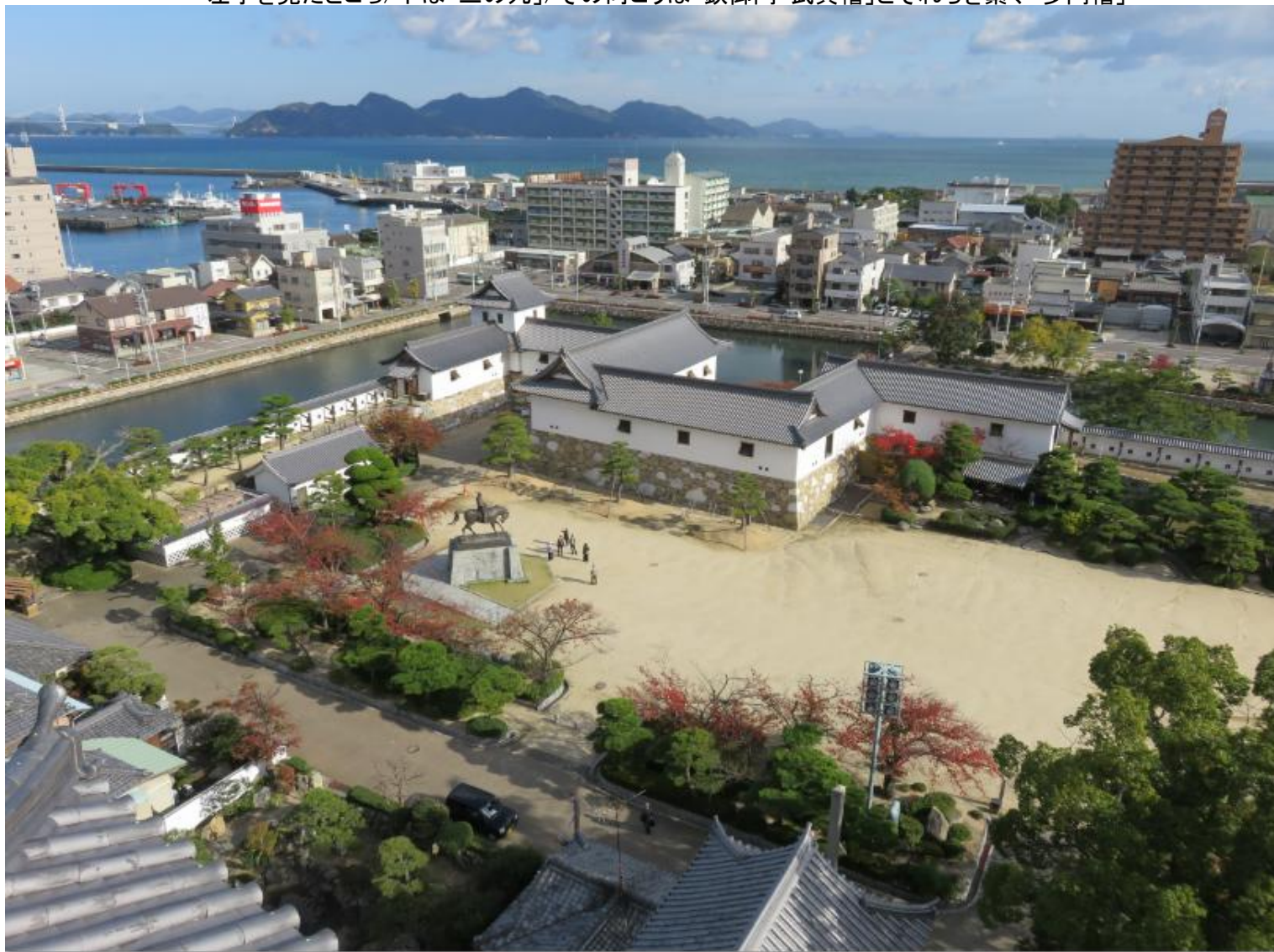
これは北東方向を見たところ



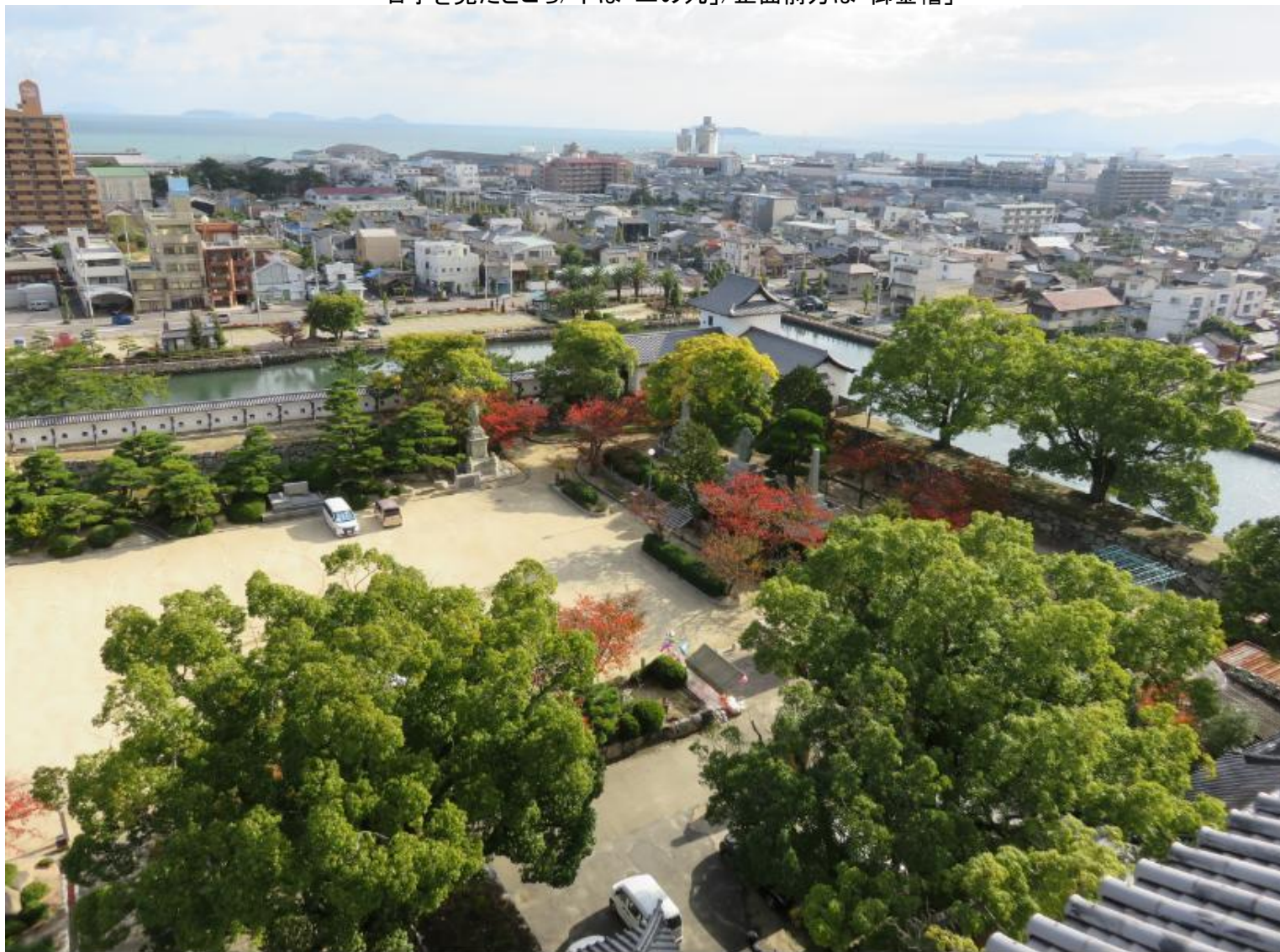
下には「二の丸」が見える/左手は「鉄御門」に繋がる「多門櫓」/右端は「御金櫓」



左手を見たところ/下は「三の丸」/その向こうは「鉄御門・武具櫓」とそれらを繋ぐ「多門櫓」



右手を見たところ/下は「二の丸」/正面前方は「御金櫓」



その「御金櫓」の辺りをアップで見たところ



これは南東方向を見たところ



下には吹揚神社境内が見える



左手を見たところ



右手を見たところ



これは南西方向を見たところ



その下を見たところ



左手を見たところ



右手を見たところ



内部にはさまざまな資料が掲示されていた





いしづく いまほりじょう もん
⑤ 移築された今治城の門
(延命寺)

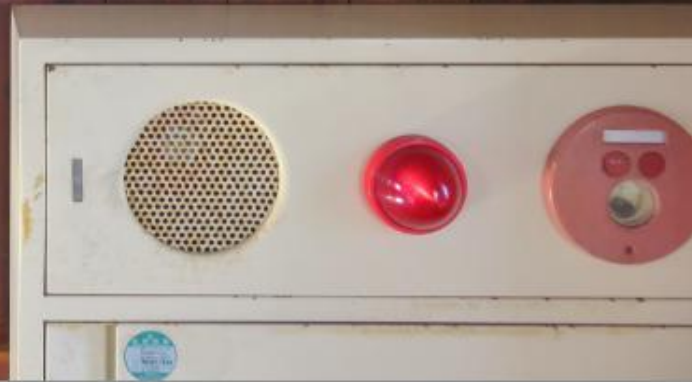
今治市内にある約四八十六箇年富忠の第24番札所 延命寺の山門は、今治城の門を移築したものです。
 移築された正確な年代は不明ですが、お寺に伝わっている話では200年以上前の天明年間(1811-1826)に築かれたとされています。
 明治3-4年(1870-1871)に今治城内の施設を取り壊した際、現在の場所に再築されました。



こくふ さんじょうあと
⑥ 国分山城跡

(今治市 桜井)

今治城から見て南東方向にある、標高100mの国分山(国分山)にある城跡です。
 鎌倉高麗が今治城の築城を許す前までは、国分山城が東予地方(愛媛県の東部)を治めるための城でした。山の南側のふもとには城跡が残っています。
 また、城跡の西のふもとにある国分寺は、約四八十六箇年富忠の第24番札所として、参拝客で賑わっています。



やまざとやぐら
山里櫓

いまぼりじょうない にし かど やぐら やまざとやぐら やぐら ちか やまざと
今治城内の西の角にある櫓が「山里櫓」です。櫓の近くに山里と
よ ていめん なづ
呼ばれる庭園があったことから名付けられました。

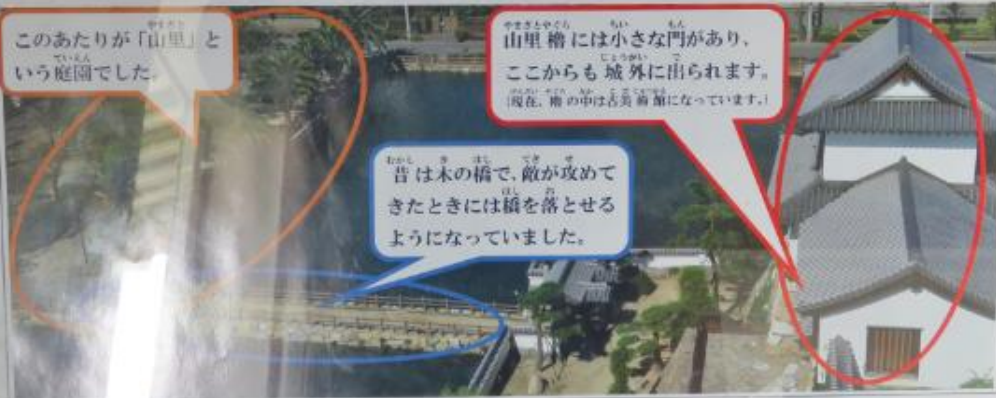
やまざとやぐら ちい もん いったい しろ でい うらくち
山里櫓は小さな門と一体になっていて、城へ出入りできる裏口です。

うらくち くろがね ごもん おおてもん たい からめてもん
このような裏口は、鉄御門のような「大手門」に対して「搦手門」と
よ せんとう しょうにんずう まも ちい つく
呼ばれ、戦闘のときに少人数で守れるように小さく作られています。

このあたりが「山里」と
いう庭園でした。

山里櫓には小さな門があり、
ここからも城外に出られます。
(現在、櫓の中は古美術館になっています。)

昔は木の橋で、敵が攻めて
きたときには橋を落とせる
ようになっていました。





① 甘崎城跡

甘崎城跡は、今治藩の藩政の中心地として、藩政の発展に大きく貢献しました。藩政の中心地として、藩政の発展に大きく貢献しました。



② 今治城外堀跡 海側

今治城外堀跡は、藩政の中心地として、藩政の発展に大きく貢献しました。藩政の中心地として、藩政の発展に大きく貢献しました。



③ 今治城外堀跡

今治城外堀跡は、藩政の中心地として、藩政の発展に大きく貢献しました。藩政の中心地として、藩政の発展に大きく貢献しました。



④ 移築された今治城の門

移築された今治城の門は、藩政の中心地として、藩政の発展に大きく貢献しました。藩政の中心地として、藩政の発展に大きく貢献しました。



北方向から



西方向から

今治城は瀬戸内海に面し、海が囲まれた三重の堀を備え、堀の一部を削いで船入（港）とする海城でした。
海を堀を持つ城としては、高松城（香川県）と中津城（大分県）も有名で、今治城と併せて日本三海水城と呼ばれていました。



南方向から

中堀と外堀は明治維新後に埋め立てられました。船入のあった場所は今でも港として活用されています。内堀は現存しており、北堀にある水路によって港（海）とつながっています。

海に臨む今治城 —航空写真—



全 景



海水堀



朝 日



夜 景

くるしまかいきょう 来島海峡

いまばりじょう きた ほうかく み かいきょう くるしまかいきょう くるしま いまばり おき
今治城の北の方角に見える海峡が「来島海峡」です。来島は今治の沖
こじま な ゆらい すいぐん きょてん しお なが はや
にある小島の名に由来し、かつては水軍の拠点でした。潮の流れが速く、
に ほんさんだいきゅうちゅう ひと ゆらめい
日本三大急潮の一つとして有名です。

かいきょう か せ せ せ せ かいどう くるしまかいきょうおおし
この海峡に架かっている橋が瀬戸内しまなみ海道の「来島海峡大橋」です。
せ かいはつ さんれんぞく つ ぼし なが キロメートル い じょう
世界初の三連続の吊り橋で、長さはなんと4km以上もあります。



「来島」はもつと西側で、
この写真には写っていません。

四国の陸地から大島までの海が
「来島海峡」です。

「大島」は、村上水軍の拠点
の一つとして栄えました。

江戸時代に今治藩が馬の放牧を行って
いたため「馬島」といいます。

「武志島」は現在では無人ですが、水軍
が砦を築いていた時代もあります。

さて、搦手の櫓門(山里門/搦手門)から城外に進んでみよう/右手は「山里櫓」



櫓門の石垣





南西方向を見たところ



その先の下を見たところ



左手を見たところ/正面前方の石垣の張り出した所は「西隅櫓跡」



その更に左手を見たところ/「天守」とその手前に「北隅櫓」が見える



右手を見たところ/城門(西門)と土橋が見える



その更に右手を見たところ



振り返って城内方向を見たところ



櫓門を階段から見上げたところ



同じく階段下から見上げたところ



そこから「天守」とその手前の「北隅櫓」を見上げたところ



さて、前方が土橋への西門



南西方向に見たところ



ここにも標柱が立っていた



土橋を渡って進もう



土橋から北東方向を見たところ/右手が「山里櫓」/正面前方が「武具櫓」



北西隅の「山里櫓」とそれに繋がる櫓門(山里門)/左下は西門



その右手を見たところ



更に右手を見たところ



その更に右手を見たところ



これは「西隅櫓跡」下の「犬走り」を見たところ



更にアップで見たところ



手前に標柱が立っている



この土橋のエリアが「山里通」という旧町名らしい



左手から「武具櫓」～「山里櫓」～「天守」と西側から見たアングル



再びアップで「天守」を見たところ



内堀にこんなものが浮かんでいた



内堀を時計回りに一周してみよう/正面は「武具櫓」



前方は大手門(「高麗門」～「鉄御門」)への土橋



その足元にはこんな標柱が立っていた



この道のエリアが「大手通」という旧町名らしい



これは北東側から南西方向に内堀を見たところ/右手に最初に見た樋門が見える



これがその海水流入樋門



その先は今治港の内港にと繋がっている



これは北西側から南東方向に内堀を見たところ



正面は南東隅の「御金櫓」/北東側から見たところ



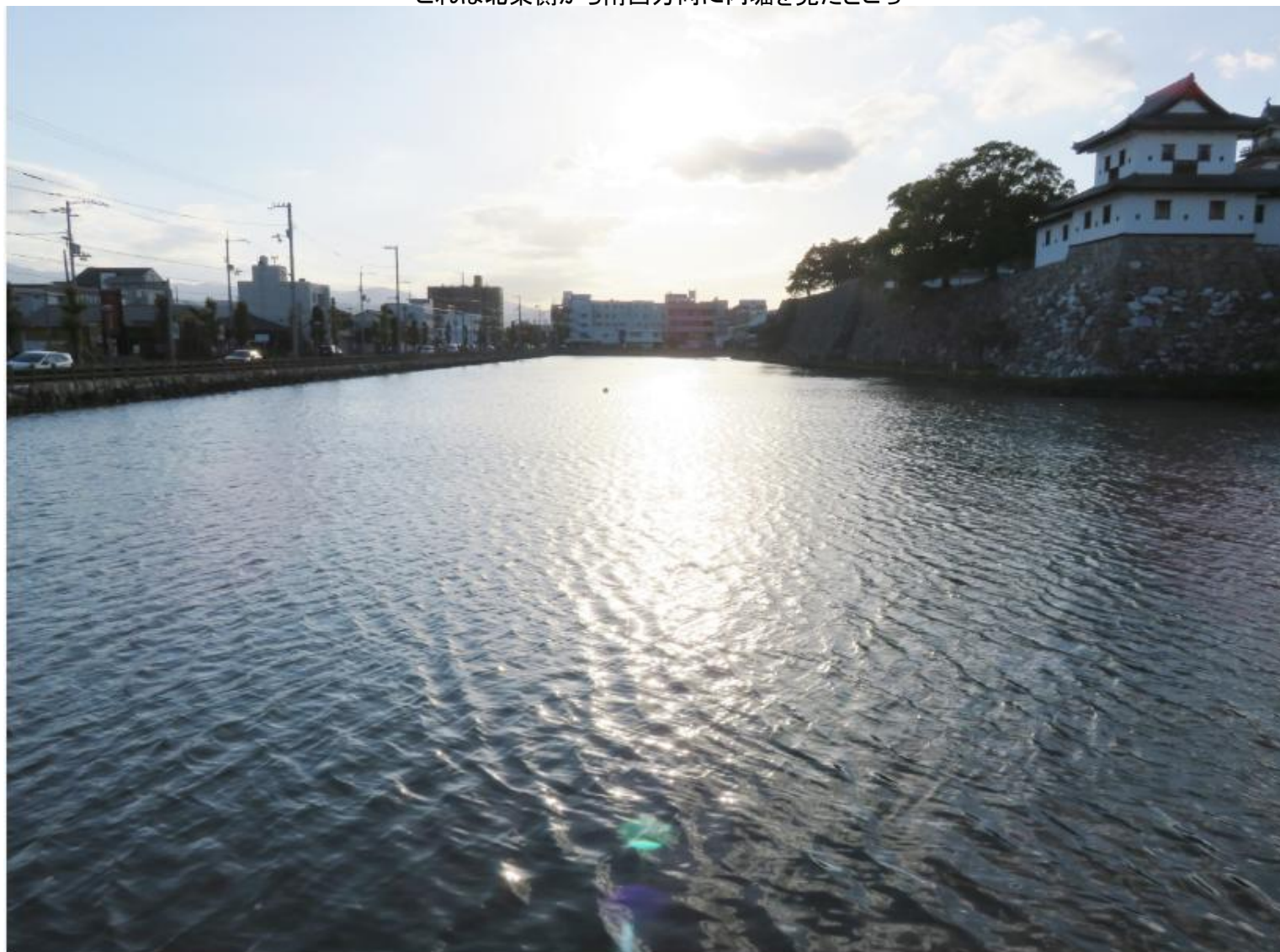
東側から正面に「御金櫓」を見たところ/右手が「鉄御門・武具櫓」



これは南東側から北西方向に内堀を見たところ



これは北東側から南西方向に内堀を見たところ



正面の張り出しは「月見櫓跡」/その背後に「天守」が見える/右手は住吉神社社殿



その石垣の下の「犬走り」を見たところ



これは「本丸」の石垣を見たところ/右手の張り出しは「月見櫓跡」/左手の張り出しは「南隅櫓跡」



石垣をアップで見たところ/野面積み



その下の「犬走り」を見たところ



これは左手の「南隅櫓跡」を見たところ



その石垣を見たところ



石垣の下の「犬走り」を見たところ



南側から正面に「南隅櫓跡」を見たところ



その「南隅櫓跡」の石垣を見たところ



アップで見たところ



これは南西側から北東方向に内堀を見たところ



これは南東側から北西方向に内堀を見たところ



これは南西側から見たところ/右手の張り出しは「南隅櫓跡」/左手の張り出しは「西隅櫓跡」



その「西隅櫓跡」の石垣を見たところ



手前に説明坂がある



平山郁夫画伯

ARTIST HIRAYAMA IKUO

しまなみ海道五十三次スケッチポイント

SKETCH POINT/SHIMANAMIKAIDO GOJUSANTSUGI



平山郁夫
画

平成11年(1999)

そこで右手を見たところ



そこからまたまた「天守」を見たところ



さて、ここは城跡の北西側にある道で、左手に標柱が立っている



この道のエリアが「弥生通」という旧町名らしい/内堀の外側に中堀、外堀と広大な城郭があったことが窺える



参考ホームページ

<http://yogokun.my.coocan.jp/imabari.htm>

<http://museum.city.imabari.ehime.jp/imabarijo/about/>

<https://senjp.com/imabari/>

<http://kaizoku-ehime.jp/tourism/13192/>

<https://4travel.jp/travelogue/10957102>

<http://sengokutan9.com/Oshiro/Ehime/Imabarijyou.html>

<http://www.hb.pei.jp/shiro/iyo/imabari-joy/>

<http://www.asahi-net.or.jp/~qb2t-nkns/imabari.htm>

<http://kahoo0516.blog.fc2.com/blog-entry-312.html>

<http://candeo-times.com/imabari-joy-1250.html>

<http://tkonish2.blog.fc2.com/blog-entry-3.html>

<http://ss-yawa.sakura.ne.jp/menew/zenkoku/shiseki/shikoku/imabari.i/imabari.j.html>

<http://www.siromegu.com/castle/ehime/imabari/imabari.htm>

<http://menamomi.net/photo/siro/imabari.html>

<https://fukiageshrine.jp/guide>

